

# 裏妙義・木戸壁右カンテ

2014/10/25 (土) 快晴

メンバー：落合 CL, 谷内 SL, 大曾根, 飯野

国民宿舎裏妙義 7：10 木戸壁取りつき 7：50 8：20 登攀開始 最終ピッチ終了点 11：30 (待ち等) 取りつき 14：20 国民宿舎裏妙義 15：00

登山大系を読んでいたら裏妙義の木戸壁にマルチピッチ・ルートがあるということを知り、頭の片隅に入れておいた。

妙義は脆弱な岩の性質上登攀対象となる岩場が少ないので、初登は1979年1月との事だが、中間支点やビレイポイントがほとんどないので再登者を見ることはなく一時は忘れられたルートだったようだが、近年になり整備が行き届いたようで数少ない貴重なルートと言える。

木戸壁には右カンテと木戸前ルンゼという2つのルートがある、前者の方が手始めには手頃なようだ。

国民宿舎裏妙義に着いたら停められない程たくさんの車、錦秋の妙義は奇勝も映え渡り一年で最も美しい季節なので致し方ない。

こここのところ安全に対する意識が高まつたせいかヘルメットを被って準備している登山者が多くクライマーなのか登山者なのか特定に難しい、でもよく見ると何かが違う…。

木戸壁も先客がいたら木戸前ルンゼに行こうか検討していたが、取りつきに着いたら誰もいなかつたので予定通り右カンテを登る。（後続で我々の他に 1 パーティー登って来た）

アプローチは 40 分程度とお手軽、竜沢沿いの一般登山道を歩き右にそれらしき壁が出て来たら踏み後を辿り岩室があるその先一段上がったところが右カンテルートになる。

木戸前ルンゼはさらにその奥へ進み、地形を見れば一目瞭然だった。

メンバーは、（落合・飯野）（谷内・大曾根）で組んだ。

飯野さんは入会 3 カ月だが、前週に個人的に登攀訓練を行いシステムもしっかり反復してもらったのでお互い安心してロープを結べたと思う。

ルートは 5 ピッチ、妙義特有のタドン状の岩でガバが多いが剥がれやすい岩が多い。

体感ではⅢ～Ⅳ 級程度、岩は他のゲレンデより脆いが支点（ペツル）がベタ打ちされているのでそれで安心感を補っている部分を含めればグレードはトボ通りという印象。

カム・ナットも少量装備に追加したが、礫岩で構成された岩にはリスもクラックも全く決められる所が無く、ハーケン・ハンマーも不要だった。

ルートの詳細は割愛するが、高度感があり景色もよく紅葉と新緑の時期がおススメ。

日当たりがいいので暑くて喉がカラカラになった、夏は敬遠したいが初冬までなら何とか登れそうだ。

全体の所見としては、同ルート懸垂下降なので途中登攀者がいたら登り切ってから下降しないと落石を誘発する、3 パーティー以上入ってしまうと混乱するだろう。



背後は表妙義が一望出来て、中腹の紅葉も見頃を迎えていた。



5ピッチ目終了点にて

ルートとしてはナチュラル・プロテクションは全く使えずペツルが連打してあるので口マンには欠けるが、入門やステップ・アップにはいいコースと言える。

(ただ 100 岩場に載っているようなマルチのルートも整備されているという意味では同等なので、木戸壁も特に他の岩場と比べて大差はない)

初登者や整備前は支点も取れずランナウトしながら苦労して登られたのだろうと感じた、そう考えると四の五の言わず整備された方々に感謝です。

つるべで登って待ちも無くスムーズに下降出来れば、木戸前ルンゼや丁須の頭、籠沢を遡行してみても面白いと思う。

懸垂下降もスタックすると登攀以上に時間が掛かってしまう恐れがあるので、50m1 本で 5 ピッチに切った。



国民宿舎からみた裏妙義の奇勝、中央右の岩峰が木戸壁になる。

登山口からみる感じでは登れるようには見えないが、どこぞのルートもそんなものだ。。

当会では西上州はあまり手を付けていない山域だが、アプローチもよく沢やバリエーション、冬のアイスと何かと手頃に楽しめるエリアだ。

何より妙義は三大奇勝というだけあって奇岩怪石が多く日本離れした風景は一味違った趣が味わえ、低山ながら山の魅力は決して標高だけでは測れないと常々感じる。

帰りはジモティ飯野さん行きつけの洋食屋（富岡市）でカロリーをリセットして帰宅した。

(記録・落合)